

自分だけの「とび双六」をつくろう

逗子開成中学校・高等学校 片山 健介

1. 実施学年及び教科・領域

学年 中学校第2学年 / 領域 社会科・歴史的分野

(※実際の授業には中2・中3・高1生徒が参加したが、便宜上、中2生徒対象の指導案としてまとめる。)

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 「天下泰平の世の中」「社会の変化と幕府の対策」

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

『中学校学習指導要領 社会編』(平成20年7月)「1. 目標」(4)には、「様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」とある。また、「2. 内容」の(1)「歴史のとらえ方」「ウ」には「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」とある。以上をふまえて、本実践では、国立歴史民俗博物館(以下「歴博」)第三展示室の「近世」展示を活用し、歴史的事象を自分なりに解釈し、まとめさせ、他者との話し合いを通じて、「とび双六」を制作させることで、近世社会の特徴や時代をとらえさせることをねらいとした。

②単元の目標

- (ア) 班の中での意見交換を通して、資史料や展示資料に興味・関心を持ち、まとめることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (イ) 発表や双六体験を通して、近世社会を多面的・多角的に考察することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- (ウ) 資史料や展示資料を比較・検討し、まとめることができる。(資料活用の技能)
- (エ) 近世社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、考えることができる。(社会的事象についての知識・理解)

(3) 博物館との関連

①活用方法 「来館型活用」

②活用資料

- ・「百種怪談妖物双六」(歴博データベースF-320-725)
- ・「徳川官職双六」(歴博データベースH-22-3-141)
- ・「成功双六」(歴博データベースH-22-3-150)
- ・「12ヶ月あそびすご六」(「体験れきはく」コーナーより貸し出し)
- ・第三展示室

(4) 指導観

本実践は、逗子開成の選択制授業・土曜講座の取り組みのなかで実施した。土曜講座は、中1～高2までが自由に選択し、講座に参加する一回完結の授業である。授業を行う上でのメリットとしては、選択制のため、比較的意欲関心のある生徒が多く集まるこ

とである。一方のデメリットとしては、一回完結授業のため、事前授業・事後授業を行うことが出来ない点である。今回は、デメリット解消のため、事前課題・事後配布プリントで対応した。

なお、実践を行うにあたっては、文部科学省のホームページに掲載されている新学習指導要領に向けた現指導要領の課題を意識した。「各教科・科目等の内容の見直し」の「社会、地理歴史、公民」の「現行学習指導要領の成果と課題」¹では、育成が不十分な点として、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度」や「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力」を挙げる。また「課題の追求」や「課題を解決する活動」が十分でないことも指摘している。

これらの現状は、本校の授業においても一つの課題としてあがっている。本実践では、第三展示室（近世）における二つの展示を組み合わせることで、歴史的事象をさまざまな角度から解釈させ、班ごとに一つの「とび双六」を制作させることを課題とした。「双六」制作・発表・体験などを通じて、主体的に学ぶ姿勢や他者とのより良い意見交換のあり方、時代の特色を読み取る力、各資料を解釈する力をそれぞれ養うことができると考えた。

また、「博学連携」という点では、小島道裕が「博学連携で拓く歴史教育」²において、博物館と学校との連携は、博物館と学校の両者が重要な課題と受けとめているものの、「両者の目的は同じではなく、なお相互の認識が十分でない面もある」とはっきり述べられている点を意識した。両者の間にあるズレをどのように克服していけばよいのかという点をふまえた上で、学校側に身を置く者として実践を行った。

3. 指導計画（事前課題・博物館見学 3.5h・事後まとめプリント配布）

（1）研修室での授業（60分）

歴博の研修室において、事前課題の確認、「双六」の歴史、「とび双六」体験を行った。

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前指導		○ 事前課題プリント「双六の思い出」に取り組む。	
当日導入	5分	○ 博物館内でのマナー・諸注意を聞く。	
展開 ①	10分	○ 課題を発表する。 ○ 他者の発表を聞き、双六体験を共有する。	□自分自身の双六体験をふりかえることで、授業の動機付けとする。 ■他者の意見と自分自身の意見の異同を考えることができたか。

¹ 「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）」（2016年8月1日教育課程部会 教育課程企画特別部会 資料3-2① 文部科学省ホームページより）

² 『学力を伸ばす 日本史授業デザイン 思考力・判断力・表現力の育て方』土屋武志・下山忍編著（明治図書出版 2011年）

			<ワークシート、行動の観察、関>
展開 ②	15分	○ 日本史における双六を考える。 ○ 絵画資料『長谷雄草子』などを通じて「絵双六」と「盤双六」の違いを読み取る。 ○ 文字史料における双六について考える。	□ 資史料の注意深い読み取りを促す。 ■ 絵画資料の「盤双六」を確認することで、「絵双六」との違いに気付くことができたか。 <発言の内容、思、技> ■ 文字史料上の「双六」と「賭事」の関係に気付くことができたか。 <発言の内容、思>
展開 ③	25分	○ 「百種怪談妖物双六」「徳川官職双六」「成功双六」「12ヶ月あそびすご六」を体験する。 ○ 体験を通じて「とび双六」の特徴を考える。	■ 多様な双六がつけられたことに気付くことができたか。 <行動の観察、知> ■ とび双六の遊び方やとび双六の特徴を積極的に考えることができたか。 <発言の内容、関、知>
まとめ	5分	○ 日本史における双六の位置づけをヨーロッパと比較しながら確認する。	□ とび双六制作のためのアドバイスを伝える。

(2) 第三展示室内・研修室での授業 (150分)

第三展示室内において個人課題、終了後に班ごとの課題に取り組み、研修室にて発表・双六体験を行った。

過程	時間	○ 学習活動及び内容	□ 指導上の留意点 ■ 評価の観点
展開①	50分	○ 第三展示室内において、当日課題に取り組む。 (参考資料 (I))	□ 展示室内をまわり、適宜アドバイスを行う。 ■ 当日課題に取り組むことができたか。 <ワークシート、関>
展開②	50分	○ 班ごとに、各人の当日課題を確認・共有し、展示を比較する。 ○ 各人の当日課題を組み合わせることで、各班一つの「とび双六」を制作する。	□ 時代の特色を「とび双六」制作に反映させるよう適宜アドバイスを行う。 ■ 組み合わせた各展示を近世という時代の中に位置づけ、「とび双六」のゲーム性にも注意をはらって制作することができたか。 <とび双六、技、思>
展開③	15分	○ 制作した「とび双六」の発表を行う。 ○ 他班の発表を評価する。	□ 発表内容は、評価シートにメモするよう指示する。 ■ 他者に伝えることを意識して発表

			<p>することができたか。</p> <p style="text-align: right;">＜発言の内容、思＞</p> <p>■他班の発表を近世という時代の中に位置づけ、評価することができたか。</p> <p style="text-align: right;">＜ワークシート、思＞</p>
展開④	30分	<p>○ 他班の制作した「とび双六」を体験する。</p> <p>○ 他班の「とび双六」を評価する。 (参考資料(Ⅱ))</p>	<p>□「とび双六」の細部の文言にも注目するよう促す。</p> <p>■「とび双六」体験を通して、近世という時代の特色や文化を知り、考えることができたか。</p> <p style="text-align: right;">＜ワークシート、知＞</p>
まとめ	5分	<p>○ 制作した「とび双六」に関する講評を聞き、ふりかえりを行う。</p>	<p>□各「とび双六」の中で表現された近世社会の特色や文化についてまとめる。</p>
事後活動		<p>帰校後、事後プリントを確認する。</p>	

4. 実践の概要

参加者合計8名(中学2年生3名、中学3年生3名、高校1年生2名)に対して行った。当日は、以下のような流れで行った。

- ・ 研修室…事前課題の確認と講義、歴博館蔵双六体験
- ・ 第三展示室…個人当日課題取り組み
- ・ 第三展示室・研修室…班課題取り組み
- ・ 研修室…双六発表、制作双六体験

(1) 研修室での動き

①事前課題「すごろくの思い出」

研修室では、事前課題を確認した。事前課題は「すごろくの思い出」というタイトルで感想を課しておいた。この課題では、生徒自身の過去の「双六」体験を振り返らせ、参加者でその体験を共有した。以下の文に代表されるように、多くの生徒が小学校低学年までは「双六」を楽しんだものの、近年はほとんど体験していないことやすごろくを自作した思い出などを共有できた。

- ・ 小さい頃に祖父母の家に行くと、祖母が夕飯をつくっている時がヒマなので、すごろくをつくっていた。夕飯後にみんなでやった。
- ・ 小学校の中期ごろからすごろくで遊んだ記憶が全くない。すごろくは自分が幼稚園から小学校前半だったころを思い出す。なので、すごく懐かしく感じられる。家族や友達と集まり、さいころを振ってコマを進め、進んだマスの「一回休み」などに、一喜一憂し、誰が最初に「あがる」かを楽しんでいたような気がする。
- ・ 小学生のころに自分ですごろくを作って遊んだ。

②日本史における「すごろく」

続いて簡単な講義を行った。事前に作成しておいたプリントをもとに講義をすすめた。以下の資史料（現代語訳したもの）から読み取れる情報について確認しつつ、日本史のなかの「すごろく」の位置づけを確認した。特に、絵画資料をも活用して「絵双六」と「盤双六」の違い、賭事として行われていたこと、近代までの時代にあったさまざまな双六などを確認した。

・引用資史料

『日本書紀』持統三年 / 『続日本紀』天平勝宝六年十月十四日太政官謹奏
『中右記』永久二年二月十四日条 / 「近江国大番舎人僧良命解」仁安二年
『吾妻鏡』寛元2年十月十三日条 / 『祇園社家日記』観応元年
『言継卿記』

・絵画資料

『長谷雄草寺』紀長谷雄と鬼の対決場面

（永青文庫蔵『日本の絵巻 11』中央公論社 1988 より）

『東北院職人歌合』博打打ち（東京国立博物館蔵「e 國寶より」）

『日清戦争壽語六』（東京学芸大双六コレクションより）

『東海道上り列車鐵道壽語六』（東京学芸大双六コレクションより）

・参考文献

増川宏一『すごろく I・II』（法政大学出版局 1995 年）

松村倫子「出版文化のなかの双六」（『幕末・明治の絵双六』国書刊行会 2002 年）

大久保純一「写真による 歴史の証人 収蔵品紹介 絵双六」（『歴博 163 号』2010 年）

③歴博館蔵双六体験

ボードゲームなどで一般的な「巡り双六」ではなく「飛び双六」の特徴を生徒たちに認識させるために、実際に体験させた。あらかじめ歴博データベースを閲覧し、歴博側のご協力も得て、次の画像を選択・準備しておいた。「百種怪談妖物双六」・「徳川官職双六」・「成功双六」・「12 ヶ月あそびすご六」の四つを順番に体験させた。特に「とび双六」の「上がり」の難しさを実感させた。初対面の生徒たちも含まれたが、「遊ぶ」ことでコミュニケーションがはかれ、この後の課題のウォーミングアップとなった。

（2）第三展示室での動き

①当日課題への取り組み

まずは個人で第三展示室を見学させ、当日課題（後掲[参考資料（I）](#)）に取り組ませた。「双六」づくりに適した展示を自分なりに選び、テーマと 7 つのマス目を考えさせた。参加生徒が選択した展示名とテーマは以下の通りとなった（マス目省略）。

- ・例)「展示名」(テーマ名)
 - ・「立体絵本で見る伊勢西国の旅」(庶民の旅)
 - ・「遣欧使節の日記など」(日本人が見た世界)
 - ・「江戸城内惣絵図を読む」(江戸城)
 - ・「川舟－最上川舟運と紅花－紅花の道」(出羽でつくられた紅花が京都に行くまで)
 - ・「江戸城広小路をみる－村から見る近代」(大人になるまでの道のり)
 - ・「東海道五十三次」(全国を歩く)
 - ・「海付きの村」(海付きの村双六)
 - ・「四季農耕図」(漁村のくらし)

②班課題への取り組み

当日課題の成果をふまえ、班ごとに「とび双六」を制作するよう指示した。ただし、一つの展示をそのまま「すごろく」化するのではなく、複数の展示を組み合わせで「すごろく」化するように伝えた。あわせて当時の時代観を良く示すような「すごろく」に仕上げるよう、マス目や文言を工夫するよう伝えた。展示を組み合わせることで、知識と知識の関連性を検討し、一つの展示の内容をより深く考えることができた。展示で得た知識と今まで学んできた知識を総動員して、近世という時代の特色を浮かび上がらせる努力を各班が行っていた。

(3) 研修室での動き

①制作双六の発表

各班3分で発表を行った。発表者以外は、評価シート(参考資料(Ⅱ))に記入した。

②制作双六体験

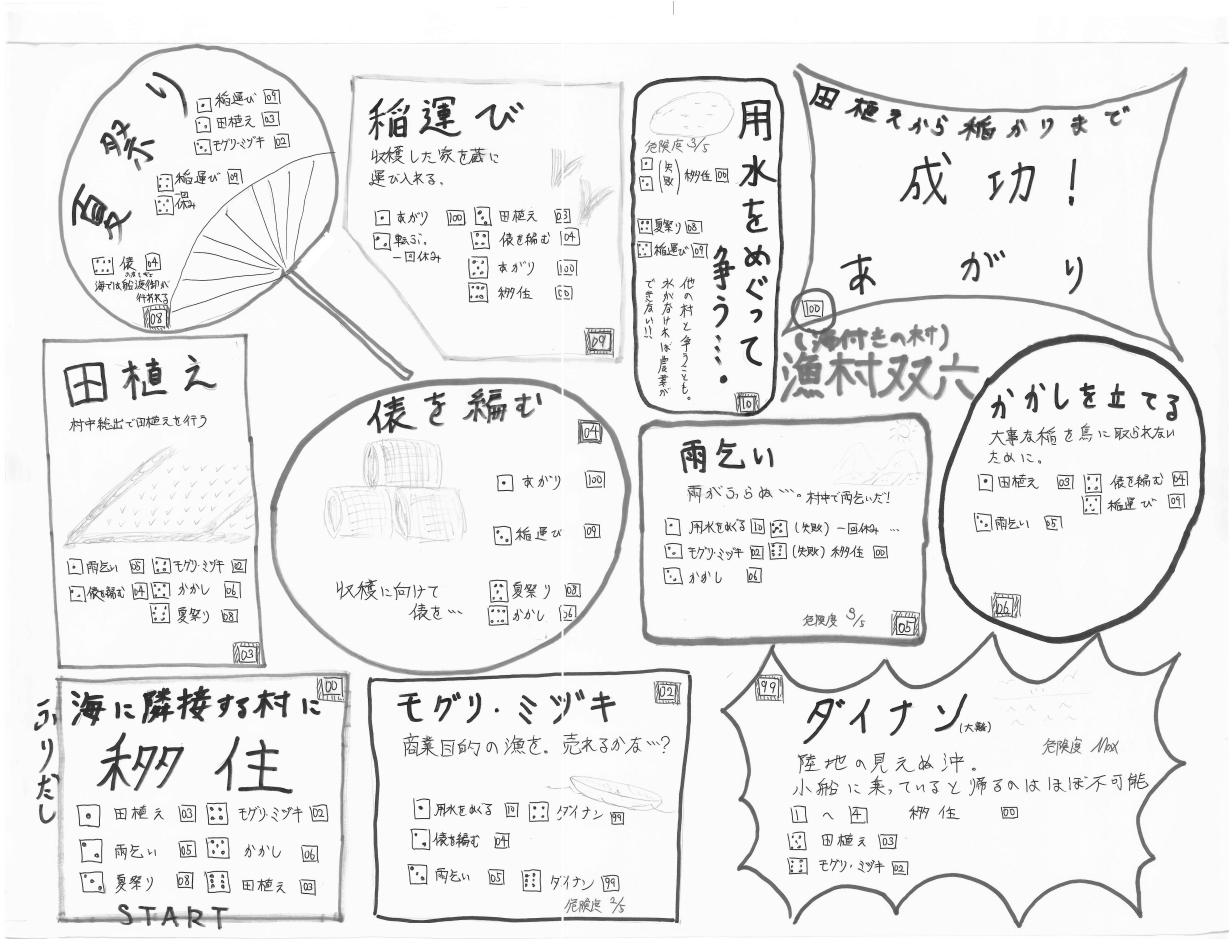
各班7分で制作双六体験を行った。他班の作品評価については、評価シートに記入させた。終了後、各作品について講評を行った。以下に作品例と生徒(教員)コメントを紹介しておく。

☆体験生徒コメント(生徒原文ママ)

- ・二回もあがりました。一回目は五回くらいであがることができましたが、二回目はなかなかあがれませんでした。また、ずっとあがれない人もおり、いろいろなパターンがありおもしろいと思いました。
 - ・村が生き残るために、米を植えてたり、水をめぐって争うといった要素があって面白かった。(なんで僕だけ上がれないのでしょうか。)
 - ・意外とゴールするのが難しかった。稲を育てることの大切さが分かったと思う。
 - ・ずっと同じところを回っていてクリア出来なかった。
 - ・村の一年が表現されていた。
 - ・結構難易度が高かったが、色もあざやかで大きいマスで遊びやすかった。
-

☆教員コメント(事後、生徒に配布したプリントより)

「海付きの村の生活」展示と『四季農耕図屏風』展示をかけあわせてくれました。「海付き」の村に注目してくれたのは、海を目の前にする逗子開成ならではの選択でした。展示の根拠となっている『浜浅葉日記』は三浦半島の村の生活や生業を知る上で大変貴重



な史料です。そもそも「海付きの村」というテーマをじっくり学ぶ機会が、通常の学校教育の中にはありませんね。「海付きの村」展示のポイントが、陸と海両方を活用した生活です。横須賀市の佐島に住む人々は、自分たちの生活ぶりを「百姓漁師」と呼ぶそうです。そこに、「海付きの村の生活」展示の目の前にある『四季農耕図屏風』を参考に「田植え」という一大イベントをミックスしてくれました。また、マス目には「ダイナン」とよばれた危険な場所もあります。「大難」と書き、沿岸部から離れすぎてしまった場所をこのように呼んでいたことを知ることにもなりますね。もう少し時間があれば、「海の生業」に関わる部分をもう少し練ることができたかな。

(4) 事後課題の配布

すべての制作双六をコピーし配布した。また、評価シートのまとめ、講評をあわせて盛り込み、事後に配布した。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 館蔵資料や展示を活用した双六づくりを通して新たな歴史の学び方を提案することができた。
- ・ 一つの展示を双六化するのではなく、展示と展示を組み合わせることで、「展示と展示を比較する力」「展示と展示に共通する時代の特徴などをまとめる力」などを養うことになった。また、展示や資料の細部を主体的に読み取る姿勢を学ぶことのみならず、「展示の比較」を行うことで「資料の比較」という歴史研究の初歩を学ぶ

ことができた。

- ・双六化の過程を通して、自分自身の意見と他者の意見とをすりあわせることで、多様な視点をまとめることを学ぶことができた。
- ・対象を第三室のみに限定したため、他班制作双六体験を通して、近世社会の基礎知識を確認することとなり、大きな時代観をつかむことができた。
- ・今回は博物館内での実践となったが、生徒への資料の提示の仕方によっては、教室内でも十分に行うことができる実践であることを確認できた。

(2) 課題

- ・事後プリントを各クラス担任を通じて配布したが、参加生徒がどのように受け取ったのかまで把握しなかった。
- ・今回、展示と展示を比較し、組み合わせていく際に、適切なアドバイスを心がけたつもりであったが、完成した双六を確認してみると、まだまだ足りなかったことを痛感した。どのように各時代の特色をつかませ、展示が示す情報を実際の資史料にひきつけながら伝えていくのか、についてはアドバイス方法含め大きな課題となった。
- ・図書館・図書室（学校・公共・歴博館内）などでの調査等を行うことで、より効果的な実践につながることを痛感したが、盛り込むことができなかった。

参考資料 (I)

当日課題 中・高 年 組 番 氏名 _____

Q 1) 第三展示室 (近世) のうち、「双六」づくり (飛び双六) が可能な展示をあげてみよう。また、どのような「マス」をつくることができるか考えて書いてみよう。

展示名 : _____

テーマ : _____

はじめ _____

A _____

B _____

C _____

D _____

E _____

あがり _____

【記入する上でのアドバイス】

- ① テーマは「近世」という時代をよくあらわし、みなに興味関心をひきつけそうですか？
- ② 「はじめ」と「あがり」は、つながっていることを君なりに説明できますか？
- ③ 「はじめ」から「あがり」までの7つの「マス」は、一貫したコメントになっていますか？
- ④ このすごろくに取り組んだ人は、楽しむことが出来そうですか？

「すごろくNo1はこれだ！」評価シート

評価者氏名 _____

すごろくタイトル _____ / 20

①全体やテーマは、近世という時代をよくあらわしていましたか？

(1 2 3 4 5)

②テーマと「はじめ」・「各ます」・「あがり」のそれぞれとのつながりがありましたか？

(1 2 3 4 5)

③発表説明はいかがでしたか？

(声、態度、身振り手振りなど)

(1 2 3 4 5)

④遊んでみて面白かったですか？

(1 2 3 4 5)

コメント